

# 基礎研究のあり方について

平成23年3月8日  
がん研究専門委員会  
間野 博行

# 実際にTR・臨床試験を大規模に行うに足る標的がない!

現状:

がん細胞学

TRに適したシーズの欠乏!

TR

対応策:

がん細胞学

シーズ探索

TR

がん基礎研究

企業へのライセンス・共同研究

これからの我が国のがん研究に必要な方針:

シーズ探索・臨床応用を念頭に置いたがん基礎研究をサポート

☆ シーズ探索に重点を置いた研究テーマの設定

☆ シーズ探索研究事業の長期的なサポート

☆ 厳しく公正な評価システム

# 応用がん研究のためのサポート体制

## がんゲノム・エピゲノムの解析

がんはゲノム病・エピゲノム病である！

・次世代シーケンサーの解析能力：数百Gbp

### 次世代シーケンサーの国別数

(Nature 467:1026)

米国：602

カナダ：61

ヨーロッパ：337(英国：125)

中国：147

韓国：28

日本：21

シンガポール：17

・米国：次々世代開発のサポート(NIH)  
「Advanced Sequencing Technology Awards」  
\$1000ゲノムの実現を目指す

### がんゲノム・エピゲノム解明の意義

- ・発がん原因の解明、治療標的の発見
- ・臨床の場での患者の選択・層別化

## がん検体バンク

・全がんでの罹患数(75才未満)は  
10万人あたり200人前後にすぎない



がん専用の検体バンク事業が必要  
(臨床情報は必須)

1) どこが維持するか？

- ・中央管理施設が保存
- ・いくつかの施設のネットワークを国がサポート

2) 誰がアクセスできるか？

- ・ネットワーク施設の研究者
- ・施設以外の研究者
- ・企業

公正なガイドラインの設置が極めて重要！